

—未来をひらく—

竜爪山 九条の会

りゅうそうざん
きゅうじょうのかい

会報 2015年8月発行 通巻31号

発行／竜爪山九条の会・事務局

〒420-0812 静岡市葵区古庄3-19-34 五井卓方

TEL・FAX 054-264-4918

E-mail ryusouzan9@gmail.com

URL <http://ryusou9.jimdo.com>

法的安定性

五井 卓（古庄）

またまた聞き慣れない言葉が出てきました。

法的安定性？「立憲主義」に関しては学校の授業でなんとなく聞いたような記憶がありましたが、法的安定性となると、なんのことやらさっぱりわかりません。

私の持っている古い広辞苑には記載がないため、百科事典で調べてみました。そこには「憲法を頂点とする法体系や解釈適用を頻繁に変えずに、法秩序が明確で安定して適用され、どのような行為にどのような法的効果が結びつくか予見可能な状態をいう。それには、法律が朝令暮改でないこと、法の解釈適用が一義的で、裁判官や役所の窓口によってさまざまな解釈が行われることのないこと、などが条件としてあげられ、法治国家の大原則。」とあります。



↑書：金子兜太（俳人）

「私が責任者です」という立憲主義を全く無視した首相の答弁

から始まり、麻生副総理の「ドイツのワイマール憲法はいつの間にか変わっていた。誰も気がつかない間に変った。あの手口を学んだらどうか」という発言、中谷防衛大臣の「現在の憲法をいかにこの法案に適用させていけば良いのか」となるともはや「は～???」以外にない。たたみ掛けるように首相の親衛隊から「マスコミを懲らしめろ」と言論弾圧発言があり、とどめは磯崎陽輔首相補佐官による「わが国を守るために必要な措置かどうかで、法的安定性は関係ない」。

もともと安倍首相は一内閣で憲法解釈を180度転換させ、集団的自衛権を認めさせようとした時点で法的安定性を無視したわけですから、磯崎氏の発言を口では遺憾としながらも、まさに首相の心の中を代弁した発言以外の何物でもなかったのでしょう。

わが国を守るためには（戦前も軍部はそう言っていたと聞きます）もはや憲法も法律も関係ない、と言うわけです。

今や憲法九条どころの話ではありません。このままではわが国の憲法の三大原則、“平和主義” “国民主権” “基本的人権の尊重”すべてが奪われてしまいかねません。

このような政府に我々の、そして子や孫達の将来を委託することは決してできません。今しかありません。安倍政権に「NO」を突きつけましょう。

7・18静岡総がかり行動報告

7月18日、土曜日。駿府城公園で“いのちを守る” “戦争させない” “9条壊すな” 静岡総がかり行動が実施されました。

会場に2,000人が結集。竜爪山九条の会からは40名余の参加がありました。会場を回った袋にはカンパもたくさんだったとか。

→ 3人の国会議員挨拶の後、7名の市民によるリレートーク。本会の8周年のついで、記念講演をしていただいた小野和典さんも持ち時間5分でわかりやすくお話されました。



↑ 事前に配られた“戦争させない” “9条壊すな！”のボードを頭上に掲げ、アピール宣言に賛同する2,000人の集会参加者。



← 11時40分、駿府城公園を出発した一行は、七間町～昭和通り～青葉公園沿い～呉服町とパレード。12時半頃、小梳神社前で流れ解散となりました。

平成昔語り

片野 修治（瀬名）

江戸時代も終わろうとする天保の頃、上州の天領は治安が緩み、一帯に縄張りを持つずみん組の新蔵親分は、縄張りの拡張となかよし血の誓いを交わした大親分、米組の出入りの助っ人を買って出ようとバタバタしておりましたとき。

【新蔵親分の独白】

野郎ども、村の鍛冶屋に槍、刀、鉄砲とドンドン作らせ、金作れ①。せんだってなあ、米組の出入りんときゃあ、助っ人の約束してきたからよう。野郎ども、ぐずぐずするんじゃあねえぞ。何いっ、縄張りの村人②が出入りの訳、聞いてきただとお。どうせあいつら何も知らねえんだから、俺とヒゲの小政が電気紙芝居出て騙しておくからやい。何いっ、会所の旦那③がヤイヤイ言ってきたあ？適当なこと言って、ごまかしとけ！八州廻り④にゃあ、小判つかましとけ、奴らも出世したいだろう。米組の助っ人だとバレないように補留無頭村⑤で博奕開帳って事にしとくぞ。ついでに中華組が攻めて来るとでも言っとけ。その方が騙し易いからなあ。何いっ、寺の坊主⑥がご法度⑦に触れる事はやめろだとお。あいつら、お経となえてりゃあいいんだあ、クソ坊主め。信州の居酢羅無一家が鉄砲玉⑧送りこんで来るだとお。なあに、俺だけ死ななきゃいいんだ。多少の怪我はもとより覚悟の上よお。野郎ども、ぬかるんじゃあねえぞ。言う事聞けねえ奴あ、指詰めて簀巻きにして⑨川にたたっこんでやらあ。野郎ども、死んだら村人総動員⑩してやる。

かくして出入りに疑問の村人、旦那衆、寺の住職対策に頭を痛めるも、米組との約束大事とばかり強行する事にしちゃったもんね。実は本当の敵は、敵を作りたい新蔵親分の心の中にいましたとき。チャンチャン♪

- ①武器輸出三原則撤廃
- ②縄張りの村人＝国民
- ③会所の旦那＝国会の野党
- ④八州廻り＝内閣法制局
- ⑤補留無頭村＝機雷はどこにあるんでしょう
- ⑥寺の坊主＝憲法調査会参考人
- ⑦ご法度＝憲法九条
- ⑧鉄砲玉＝テロの可能性
- ⑨指詰めて簀巻き＝選挙公認しない、軍法会議
- ⑩村人総動員＝徴兵制



ドキュメンタリー映画『ショア』
監督：クロード・ランズマン
1985年 フランス 1～4部 (567分)

監督ランズマンがナチスの収容所から生還したユダヤ人、収容所の元ナチス親衛隊員、収容所近くに住むポーランド人農夫ら膨大な数の証言者を訪ね、彼らの言葉（肉声）を収録。予備調査14ヵ国、350時間に及ぶ撮影。過去の記録映像や感傷的な音楽を一切排して作られた第一級の芸術作品である。

戦後70年を迎え、冷戦終結後の混迷する世界に生きる私たちにこの映画は何を語り掛けてくれるのでしょうか。考えるのはあなたです。
(静岡シネ・ギャラリーのパンフより転載編集)

日本国憲法は「戦争」を認めない！

北野 豊 (古庄)

◆世の中に、「良い戦争」「悪い戦争」というのがあるでしょうか。

どんな「戦争」も、悲惨で、多くの人が傷つき、生命を失うのです。大きな戦争の時代を経験して、「もう、戦争はイヤだ」「二度と戦争をしてはいけない」という思いから生まれたのが、日本国憲法です。日本国憲法は、「〇〇のための戦争」を認めません。「〇〇」に、「平和」「自衛」と入れた「戦争」も認めません。日本国憲法は、「戦争」そのものを認めないのです。

◆「自衛のための戦争」なら、良いですか。

あの、日本の侵略戦争も、「自衛のための戦争」だと言われたのです。今、アメリカがおこなっている戦争も、「自衛のための戦争」だと言うのです。それでは、中国や北朝鮮が攻めて来たらどうするのでしょうか。「自衛のための戦争」をしなければならぬのではないかと。違います！中国や北朝鮮が、攻めてこないようにすれば良いのです。お互いに戦争の悲惨さを確認し、人間と人間の交流が進み、争いごとくも武力でなく、話し合いで解決しようとしていけば、日本が攻め込まれることはありません。それが、日本国憲法の本質です。

◆「軍隊」も、「武器」も、「集団的自衛権」も、「安全保障関連法案」も、およそ、「戦争」につながるものを、日本国憲法は認めないのです。

一部の人たちの「わがまま」を認めたことが、大きな戦争につながりました。安倍首相と、その仲間たちの「わがまま」を許したら、再び日本は、「戦争」の道を歩むことになりま

す。絶対に許してはいけません。仲間うちで、こんなに殺しあう生物は、他にあるでしょうか。「戦争」はイヤです。

自民党参議院議員 にFAXを送ろう！



「安全保障関連法案」の審議の場は、参議院に移っています。国会議員はあくまでも、国民の代表、私たちの代表です。私たちの思いを踏みにじって審議をしないよう、自由民主党の参議院議員に、しっかり届けましょう。岩井議員は来年改選です。

岩井茂樹議員（参議院議員会館520号室）FAX 03-6551-0520

牧野京夫議員（参議院議員会館812号室）FAX 03-6551-0812

私が送ったFAX文

多忙な毎日をお過ごしのことと、お察しいたします。先般、「安全保障関連法案」が衆議院で可決され、参議院で審議されることになりました。

「安全保障関連法案」は、安倍総理がどんなに「国民の安全のため」と強調しても、「集団的自衛権」の名のもとに、アメリカ軍が世界各地で展開している戦争に、自衛隊が参加する道を開くことは明らかです。「集団的自衛権」を容認するこの法案に対して、圧倒的多数の憲法学者が「憲法違反」であると断じています。この法案が国会で成立すれば、やがては自衛隊が海外の紛争地域へ派遣され、自衛隊員が殺される事態が生じるばかりでなく、相手国の人を殺す事態も発生してきます。そうなれば、相手国の人びとの憎しみをかい、日本人がテロで狙われる危険性も高まってきます。また、人の生命を断つという、心に大きな負担を与えることを、自衛隊員に行わせて、ほんとうに良いのでしょうか。

憲法に違反し、戦争やテロに巻き込まれる危険性が極めて高い法案を、今、急いで成立させなければならないほど、日本は緊急事態でしょうか。安倍総理の答弁を聞いても、切迫感は伝わってきません。国民の大多数が戦争は嫌

いです。この法案の中身を知れば知るほど、反対の声は大きくなっています。独裁者ようになってきた安倍総理に、直感的に「こわさ」を感じるようになってきています。

今、自民党内では、「首相の政策に内心で反対でも、口に出せばにらまれる」（静岡新聞）という状態のようですが、岩井（牧野）さんには、どうか、勇気をふるって、参議院で「安全保障関連法案」成立を食い止めてくださいますよう、よろしく願いいたします。もし、賛成されるなら、地元へ戻って、「内心、反対だった」などと、有権者を欺くことを絶対に言わないでください。

講演会と映画会のお知らせ

講演：戦争をしない国から、戦争をする国への変貌

—歴史に学ぶ憲法9条の重み—

講師：諏訪部 史人 弁護士・静岡市憲法9条の会連絡会会長

とき：9/12（土）13：00～14：20

ところ：静岡シネ・ギャラリー（松坂屋Pより東へ30m）

料金：一般一律1,800円／シネ・ギャラリー会員一律1,400円

※講演会と映画1プログラム鑑賞できるセット券。限定200名。

クロード・ランズマン監督 上映作品 6プログラム

	10:30～12:15	13:00～14:20	14:40～18:20
9/12(土)	ソブビル、1943年 10月14日午後4時 (98分)	講演会 講師：諏訪部史人	不正義の果て (218分)

	10:00～12:35	12:50～14:55	15:10～17:45	18:00～20:35
9/13(日)	SHOAH	SHOAH	SHOAH	SHOAH
9/22(火・祝)	第一部	第二部	第三部	第四部
9/23(水・祝)	(154分)	(120分)	(146分)	(147分)